

平成 30 年度第 1 回花巻市立図書館協議会 会議録

1 開催日時

平成 30 年 7 月 24 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 45 分

2 開催場所

花巻市立花巻図書館 会議室

3 出席者

（1）委員（9 名）

菊池一英委員、阿部久幸委員、市川浜委員、門馬優子委員、高橋則子委員、
佐々木さつき委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、白藤祐三委員

（2）事務局（7 名）

市川生涯学習部長、梅原花巻図書館長、久保田大迫図書館長兼花巻図書館
副館長、盛田石鳥谷図書館長、菊池東和図書館長、
伊藤花巻図書館業務係長、黒澤石鳥谷図書館主査

4 欠席者

1 名（熊谷恵委員）

5 傍聴人

2 名

6 議題等（議事録）

●会議に先立ち、市川生涯学習部長から委員に委嘱状を交付

●会議成立の報告（久保田大迫図書館長兼花巻図書館副館長）

・委員 10 名中 9 名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えているので、花巻
市立図書館協議会規則第 7 条により、本会議が成立することを報告。

1 開会（久保田大迫図書館長兼花巻図書館副館長）

2 部長あいさつ（市川生涯学習部長）

皆さんおはようございます。お忙しい時期にお集まりをいただきまして、大変
ありがとうございます。

図書館協議会ですが、引き続きご協力いただいている委員の方も多数ですし、新しい委員の方もおられますが、図書館では今年度の事業等について、いろいろ皆様方からのご意見等をお聞きしながら進めていきたいと考えております。市立図書館は4館あり学校との連携などいろいろな言われておりますが、学校の先生も委員の中にいらっしゃいますので、ご意見を聞きながら、いい図書館にしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いしたいところでございます。

あとは長年の懸案となっております新しい図書館、この図書館の建て替えにつきましても、昨年度基本構想という根幹になる部分を、皆様からのご意見を踏まえ確定させたところであります。それに基づいて、今年度計画の具体化を進めていきたいところであります。今回、若干ではありますが、基本計画の一部に入れていきたい図書館の考え方をお示しいたし、ご意見を賜ればと思っておりますので、どうぞ今日はよろしくお願いいたします。

3 委員紹介

- ・資料添付名簿順に各委員から自己紹介。

4 事務局紹介

- ・生涯学習部長並びに花巻図書館、大迫図書館、石鳥谷図書館、東和図書館の順で自己紹介。

5 協議会概要説明

- ・事務局から花巻市立図書館協議会について、条例及び規則により説明。

6 会長及び副会長の選出

- ・事務局から、花巻市立図書館協議会規則第5条により、会長及び副会長を委員の互選により選出することとなっている旨を説明。どのような方法で選出するか、委員にお諮りした。
- ・事務局案との声があり、他に特に意見がなかったことから、事務局案として、会長を坂本知彌委員にお願いしたい旨説明。
- ・全委員異議なく、坂本知彌委員を会長とすることに決定。
- ・坂本会長が会長席に着き、皆様のご協力をお願いしたい旨挨拶。
- ・坂本会長から副会長の選出について、会長指名でお願いしてよいか委員に諮り門馬優子委員を副会長にお願いしたい旨説明。全委員異議なく、門馬優子委員を副会長とすることに決定。

7 議 題（図書館協議会規則第6条により、会長が議長となる）

（1）平成29年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

- ・平成29年度花巻市立図書館の事業実施状況について、花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：伊藤係長、大迫：久保田館長、石鳥谷：盛田館長、東和：菊池館長

- ・平成29年度決算・平成30年度予算概要及び図書館統計等について、久保田大迫図書館長兼花巻図書館副館長から説明。

（質 疑）

（○坂本会長）

平成29年度の実施状況等についてから平成30年度予算まで、それぞれの事業の説明をしていただきました。これにつきまして、ご質問がございましたらお願いします。

特に質疑・意見等なし。

（○坂本会長）

ご丁寧にご説明いただいたので、次に移ってよろしいですか。

（2）平成30年度花巻市立図書館の事業計画について

- ・平成30年度花巻市立図書館の事業計画について、花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：伊藤係長、大迫：久保田館長、石鳥谷：盛田館長、東和：菊池館長

（質 疑）

（○坂本会長）

平成30年度の事業について、ご説明いただきましたが、これに関してのご質問ございませんでしょうか。

（○白藤委員）

花巻図書館の方で、読書活動推進スキルアップ講座、これに6月のビブリオバトルが入っているわけですね。

（○伊藤花巻図書館業務係長）

みんなでライブラリーの方に入っております。

（○白藤委員）

あれもいい企画だなと思いましたが、読書おもいで帳の発行というのは、私実際におもいで帳を見たことがないので、出来ればちょっと拝見させてもらいたい。大人も興味のある人は、こういうものを持ってもいいのではないかと考えて

おります。

(○坂本会長)

今、白藤委員さんからお話しがありました6月のビブリオバトルはぎんどう公園で開催されました。みんなでライブラリーの第1回目。ぎんどう公園で行われたことも良かったです。

(○白藤委員)

ゲスト3人の人選が良かったです。

(○坂本会長)

そうですね、とてもいいお話でした。もっとたくさんの人に聞かせたかったと思っただけでした。そして、外だから暑いかなと思ったら、いい風が吹いてすごく爽やかだったなと思いました。いいですね、あの企画。それで、良かった良かったという話しが広がればいいと思って、あちこちに言っているのですが、もっと広がればいいですね。

(○梅原花巻図書館長)

もっと周知の方法を工夫して、多くの方に来ていただけるように頑張ります。

(○白藤委員)

なかなか自分以外の人から、本の自分の経験とか感想を聞く機会は、ないですよ。そういう機会があればいいと思います。

(○坂本会長)

そうですね。そして、読み聞かせで言えば、元劇団四季の団員さんがゲストの一人だったのですが、雨ニモマケズの朗読があったし、それから歌が少しあったりして、聞きごたえがとてもありました。

(○白藤委員)

はい。

(○坂本会長)

読書おもしろい帳も、中学生まで拡大されたというのがいいですね。このことは中学生も知っているのでしょうか。そのあたりのところ、学校ではどうなっているのでしょうか。

(○佐藤委員)

中学校でもチラシが配布されました。

(○菊池委員)

読書おもしろい帳に関わってなのですが、昨年度340人に交付、今年度の目標は3,000人。登録自体はいいのですが、登録してそのあと、どの程度借りているのか、読んでいるかというところまでおさえていらっしゃいますか。

(○梅原花巻図書館長)

まだそこまではおさえておりません。

(○菊池委員)

むしろ、そちらが大事だと思います。登録すれば、これは確かに1人一冊になるのですが、一回登録して終わりでその数字だけでできて、読んでいるということにはならないと思います。

(○梅原花巻図書館長)

読書おもいで帳を発行したお子さんは分かるので、そのお子さんが何冊借りたかということは分かると思います。ただ、それを統計として、まだ捉えておりません。

(○菊池委員)

全員というのは難しいかもしれませんが、せっかくこの機会なので、何度も足を運んで、どんどん増えていくというところまで、数字が上がってくるといいなと思われます。

それから、もうひとつよろしいですか。大迫中学校さんの職場体験での紹介がでていましたが、他の3館は中学生さんの職場体験はありませんか。

(○梅原花巻図書館長)

例えば、花巻図書館ですと7月に湯口中学校さんと西南中学校さん、花巻中学校さんで中学生2人ずつが職場体験されました。先ほど伊藤係長から説明しましたが、その時に中学生の皆さんにお薦めの本を選んでもらって、今2階の閲覧室で紹介しています。

(○菊池委員)

とてもいいことだと思います。白藤委員さんもおっしゃられていましたが、いろんな世代の人たちが、いろんな世代の立場で本を紹介するということは、とても興味あることだと思いますので、とてもいいなと思います。

(○坂本会長)

そうですね。中学生がどんな本に興味を持っているかというのは、大人も興味があるところです。

中学生の読書おもいで帳の反応などはいかがでしょう。阿部委員さんどうでしょう。

(○阿部委員)

すみません、まだおさえておりません。

(○坂本会長)

読書おもいで帳が継続して広がってくればいいですね。通帳のお金が増えるのと同じように。ちょうど同じ形ですから。そういうふうに子どもたちが、意欲を持って読書に取り組んでくれればいいと思いますね。

他に、ご意見ございませんか。

(○佐藤委員)

小学三年生のお母さんに「学校に来た移動図書館車“ぽら～の号”で本を借りた時、“ぽら～の号”の職員さんに読書おもいで帳を渡したあとに何日で戻って来るんだろう。学校の先生経由で子どもの手元に来るのに、時間が何日かかるんだろうか」と言われましたが、そのあたりはどうでしょうか。

(○盛田石鳥谷図書館長)

“ぽら～の号”は石鳥谷図書館になりますが、持ち帰ったその日には、もう記帳をいたしますので、早ければ翌日か次の日には先生の手元に返すようにしています。

ただ、返し方が誠に申し訳ないのですが、石鳥谷総合支所経由ですので、一旦石鳥谷総合支所の教育委員会の棚に入れます。そうしますと学校校務員さんが来て、書類と一緒に学校へ持ち帰り、それから先生の机の上に届く流れになると思いますので、どうしても2～3日のタイムラグは、あると思います。

(○佐藤委員)

もしも、その間に本を借りた場合、そのお母さんが「その間に借りた本の記帳はどうなるの?」と言っていたので、「返す前に記帳したらどうです」とは言いました。「返す日に、カウンターに行く前に記帳すれば、いいのではないか」と言いましたが、その助言で良かったでしょうか。

(○盛田石鳥谷図書館長)

はい。先生の手元からお子様が届くのは、平日と思われますので、遅くても金曜日にお子様の手元に返れば、土日に図書館に来て図書館の本を借りる際、前回の本を返す前に記帳していただけると。窓口では、そのように返しに来た方に「記帳しましたか?」という声がけをするように心がけてはいます。

ただし、読書おもいで帳が先生の机の上に置いてあっても先生がいらっしゃらなければ、お子様の手元にいつ届くかということは、こちらではちょっと把握できないです。

(○佐藤委員)

そこを心配していたお母さんがいたので、“ぽら～の号”で記帳できればいいのに、と斬新な意見もありました。

(○坂本会長)

予算的なことがあるので。

他にございませんか。質問のみならず、ご意見も。

(○門馬委員)

前回の会議の時に申し上げましたけれども、学校の図書担当の先生から、なか

なか読書ボランティア全体の情報が、手に入りにくいという声がありました。その後改善されていますでしょうか。

(○伊藤花巻図書館業務係長)

学校図書館支援員の先生に、私たちの方で把握しているボランティアさんをご紹介することができるというお話しはしておりますが、学校ごとにどのボランティアさんがいるかというまとめたものを私どもで作っていないものですから、今後検討させていただきたいと思っております。

(○門馬委員)

お願いします。

(○佐藤委員)

講習会などの案内が学校経由でボランティアさんへ届きにくいという意味もあるのですか。

(○門馬委員)

そういう意味ではなく、図書担当の先生が自分のところで、何か企画したい時に、いったい花巻市内に、どういう団体さんがいるのだろうということで、調べようと思ったけれど、なかなか探せなかったという話を聞きましたので。

(○佐藤委員)

ああ、そうかもしれませんね。

(○坂本会長)

どこかで、まとめるところがあれば、いいですね。

(○門馬委員)

そうなのですよ。

(○佐藤委員)

学校図書館支援員の小山田先生は、どこの学校に何人のボランティアがいるという情報を全部把握しているのですか。

(○菊池委員)

把握しています。

(○門馬委員)

広く花巻市内全体で、網羅した情報があればいいなと思いますけれど。

(○坂本会長)

でも、学校図書館支援員の先生が実現したということは、一つの進展でしたよね。

(○菊池委員)

石鳥谷小学校は、小山田先生に随分支援していただいて、読み聞かせの際にボランティアを全学年・全クラスに入れるシステムになっています。マグノリアさ

んに応援してもらったり、おはなしのろうそくさんに入ってもらったりして、一斉に入るということが、今ではできています。

(○坂本会長)

他には、ございませんでしょうか。それでは、アンケートの結果報告をお願いいたします。

(3) 図書館来館者アンケートの結果報告について

・平成30年度実施の図書館来館者アンケートの結果報告について、梅原花巻図書館長から説明。

(質 疑)

(○坂本会長)

アンケートの結果について、ご報告いただきました。これに関してご質問ございませんでしょうか。

(○佐々木委員)

これだけのアンケートを集計されるのは大変だったと思いますが、一番最後のページ、《富士大学図書館を利用してみての感想》の4番目の「富士大学側から説明を受けたが、本図書館から説明を受けたことはない。」というのは、このアンケートに答えた方の回答なので、はっきりしないかもしれませんが、何の“説明”か分かりますか。

(○梅原花巻図書館長)

花巻市と富士大学は相互友好協力協定を結んでおりまして、図書館だけではなく、いろいろな分野で連携しておりますが、花巻市立図書館の利用者カードがあれば、富士大学図書館の本の閲覧ができます。アンケートに答えた方はおそらくそのことをおっしゃられているのかと思います。市立図書館でも富士大学の図書館も利用できますということで、カウンターのところにチラシを貼ったり、ホームページでご紹介をしたりなどしているのですが、回答者の方には分からなかったという、お声なのかと思って見ておりました。

また、本を閲覧するだけであれば、花巻市立図書館の利用者カードだけでよいのですが、本を借りるという時は、市民の方であれば、富士大学図書館で登録していただければ借りることもできます。

(○佐々木委員)

そういうことの“説明”という意味ですか。

(○梅原花巻図書館長)

そうだと思います。

(○坂本会長)

他にはございませんか。

(○佐藤委員)

前に「この本ありますか」とカウンターで見てもらったら、「富士大学図書館にはあります」と言われたのですが、結局相互貸借できるわけではなく、借りるためには自ら行かねばならない。利用者カードは持っていて見ることはできるけれど、貸出しするには、もうひと手間かかるということで、富士大学図書館にありますと言われても、なかなか難しいなと思ったことはあります。

(○坂本会長)

一步進めて、相互貸借ができるようになれば、いいのかもしれないですね。

(○白藤委員)

アンケートというのは、すごく難しいと思います。設定も、その分析も。特に今気になるのは、年齢の部分で、20代が3.0%、30代が12.9%ということですが、それと同じように、3ページにある「図書館のホームページの内容はわかりやすいですか？」という設問の「利用したことがない」という回答が約51%、これは非常に危険な状態。これだけインターネットが普及してる時に、ホームページを使えば、かなり検索も楽ですし、新しい情報も入る。若い人たちの図書館への関心が非常に低い。やはりこの世代の人たちを図書館あるいは本に、本だけではなく、いろいろな資料に関心を持ってもらうようなことが、これからの課題になるのではないかと思います。

(○梅原花巻図書館長)

そのとおりだと思います。小学生までは、たくさん本を読んで、図書館にも来ていただいておりますが、中学生になるといろいろ忙しくなってきたり、図書館で本を借りる冊数も減ってしまうということは、図書館の利用統計でもでております。次の段階として、お子さんと一緒に来館するようになる30代40代の方の来館者が増えてきております。

また、今回のアンケートのホームページの設問部分についてもおっしゃるとおりで、年代別で集計をとったものを見ると、「利用したことがない」という割合が50%を超えるのは、60代以上の方と10代の小学生のところで、若い年代の方は「利用したことがない」という答えはあまりございませんので、若い世代をどうやって、本に親しんでいただくかということは、図書館も含めていろいろ考えていかなければいけないことだと思います。今後の課題と考えております。

(○坂本会長)

以前であれば、何かを調べるのは本で調べていたのですが、今はスマートフォンで検索するので、なかなか難しいですね。

(○門馬委員)

自由記載が、すごい数だったのに驚きました。なるほどというご意見もあるし、これちょっとというの也有るのですけれど、寄せられた意見・要望に対する対応方針はどのような形で戻されるのか、時期はいつ頃になるのでしょうか。

(○梅原花巻図書館長)

今回のアンケートの報告書は案ですので、これを修正しながら、ホームページと、各図書館のカウンター近くに冊子にして設置しようと思います。8月～9月までには公表したいと思います。

(○門馬委員)

分かりました。

(○坂本会長)

各図書館それぞれに特徴がありますよね。例えば、資料とか神楽関係とか、そういうものを、どこかみんなの見えるところに、こういう4館の図書館の特徴を示しておくということも必要なかと思いました。相互貸借できるし、「これについて」と相談すると分かるのですが、そういうことが分かれば、アンケートのところで、何か解決できる部分もあったのかと思います。

それから、マンガというようなものを、昔の漫画の本、私たちが小さい頃の漫画の本というように捉えると、ちょっと今のマンガの世界は違ってきているような、マンガは一つのジャンル、文学のジャンルみたいになってきているようなところもあると思っています。年配の方でマンガは要らないみたいなことをお書きになっている方が何人かいらっしゃいますが、やはりそれも若い方向きには必要なんだよ、ということ、どこかにあった方がいいと思います。

また、文庫本は自分で買った方がいいのではないかと。そのような図書館の方針みたいなものが、どこかにあればいいと思います。文庫とか新書とか、あまり高額でない本は、自分で買って自分の本にして欲しいと私自身思っているものですから、文庫を買うのであれば、その他の資料を図書館では揃えてほしいと思っています。図書館の限られた予算を、どのような方針でその本を買っているのかということ、どこかでみんなに知らせる必要があるのではないかと思います。このアンケートを読みました。

(○梅原花巻図書館長)

分かりやすいところにそれぞれの館の特徴を示すということは、今はパンフレットなど細かいものしかないので、考えていきたいと思います。

(○坂本会長)

何かそういうのがあると、ああそうなのか、そういうことで揃えているのかというのが分かれば、実際に本は手に取って見たいものなので、他の図書館に足を運ぶこともあるのかと思ったこともあります。

(○梅原花巻図書館長)

ありがとうございます。

(○坂本会長)

他にご意見はありますか。

(○佐藤委員)

坂本先生がおっしゃったマンガは要らない。娘は中学三年生ですが、本も読みますがマンガも相当読みます。マンガは漢字にふりがなが付いていますので、おそらく彼女はそれで漢字を余程読めるようになったと思います。マンガの絵に補われて、語彙数を増やすということもあります。

(○坂本会長)

ありますよね。

(○佐藤委員)

あと岩手県出身者のマンガコミックがあるのですが、「ハイキュー！」など、「ああ、岩手県の人描いているんだ」と思いますし、石鳥谷図書館にマンガを充実するという特色は、大いにこれからも頑張ってもらいたいと思っています。

(○坂本会長)

そうですね。

(○菊池委員)

ちなみに、小学生、特に低学年については、一番読まれているのは「かいけつゾロリ」。以前は、六年生くらいまで、ずっとみんな読んでいて、「あれ読書してるね」というと「ゾロリ」。ただ本校では支援員さんが図書室に入るようになって、本の並べ方をどんどん変えていく中で、高学年まで読んでいた「ゾロリ」が、どんどん減っていく。「ゾロリ」から、本当に絵のない本に、どんどん移っていきます。

だから本当に図書室、図書館もそうでしょうけれど、環境というものが、いかに子どもたちに直ぐ影響するかということですので、こういう支援員さんがどの学校にもいらっしゃれば、もちろんいいのですが。

ただやはり、本の入り口はやっぱり「ゾロリ」でいいと、私もそう思っています。そのあたりのバランスを含めて、情報交換はすごく大事なかなと思いますね。

(○坂本会長)

そうですね。

(○佐藤委員)

ボランティアでもまず「ゾロリ」。真っ先に「ゾロリ」ですね。ただ、「ゾロリ」は全部のページにページ数があるわけではなく、登場人物もどの本でもほと

んど同じなので、ページが抜けてしまうとどこに入れてよいかが分からなくなります。私もポプラ社に何回か電話して、本当に困ってるから、ノリを強くして壊れにくくするか、あるいはページ数を書いて作って欲しいと。それでも子どもたちは本当に「ゾロリ」好きです。絵本から、まず「ゾロリ」にいきます。

(○坂本会長)

学童でもそうです。「ゾロリ」がほとんど揃っていて、子どもたちの要望で新刊も買いました。

学校の子どもたちの様子まで、こうマンガから「ゾロリ」になって、それから字がいっぱいの本になって、このような様子が見えるご発言もいただきました。他には、ございませんでしょうか。

それでは次に、みんなが待ち望んでいること、4番に移ってよろしいでしょうか。それでは4番、新花巻図書館整備について、お願いいたします。

(4) 新花巻図書館整備について

- ・新花巻図書館整備について、市川生涯学習部長から新花巻図書館整備の基本方針をより具体化していくための基本計画を策定しているなかで、図書館に関する部分の現在までの状況を説明。

(質 疑)

(○坂本会長)

市川部長さんの説明で、何かこれは聞いておきたい、というようなことがございましたらお願いします。

(○市川委員)

前段の中で、部長さんのおっしゃったこの基本方針によると、三つの中で一番目にあります郷土の歴史資料のことで、花巻市の先人はとても多いですが、図書館の図書資料とこの先人の方々の資料と、そういうスペースの割合というか、例えば、どの程度までそういう先人の方々を顕彰するためのスペースを設けるとか、そのあたりについてどのように考えているのですか。

(○市川生涯学習部長)

今おっしゃったのは、例えば展示するスペースというようなイメージでよろしいでしょうか。

(○市川委員)

はい。

(○市川生涯学習部長)

先人の資料、例えば宮沢賢治の図書は全部置きましょうとか、新渡戸稲造や新渡戸に関するもの、萬の本など関連したものを置きましょうというのはあろうか

と思うのですが、その展示するスペースをどうするかというのは、まだ決めているわけではございません。常設で展示するというのは、ちょっと難しいかなと思いますが、今も図書企画の展示などしておりますので、花巻図書館はスペースが少ないので、そんなにできないのですが、ある程度企画図書展示ができるようなスペースは、あった方がいいのではないかと考えております。

(○坂本会長)

今の関連ですが、博物館に鶴陰碑のレプリカがありますよね。博物館の他に、展示関連のイーハトーブ館とか、そういったところとの連携も必要ですよ。もうすでに連携はとれていて、どの資料はどこにあるかというようなことは、検索可能だとは思いますが。資料を全部図書館に納められるのではなく、今のいろいろな団体を活用していただいて、図書館は本来の図書資料の収集や、本の貸し出しも大事にしていきたい。新図書館も限りなく大きくなるわけではないでしょうから、そのスペースを十分、有効に使っていただきたいと思うところです。

他にはありませんでしょうか。

(○白藤委員)

基本方針で最後の部分にある、まちや市民に活力と未来をもたらす図書館、このとおりだと思うのですが、今日のアンケートの結果を見てもやはり気になるのは、10代、それから20代、そして30代。この若年層の意見が、どれだけ反映されているかを把握されているかという部分です。読書に関してもそうですが、やはりそういった若年層を育てる。希望を持たせるばかりではなく、若い人たちが何を期待しているのか、そういったことを重点的に把握していただきたいと思っております。

私も坂本先生と同じように、もじもじクラブで読み聞かせをして10年ほどになりますけれど、もっぱら子どもたちに期待しています。子どもたちとその母親の方々。たまに、お父さんが子どもを連れてくる時もありますけれど、そういう人は、なおかつ大歓迎で、やはり行政としても、そういった次の世代の人たちを育てるという取り組みをしていただきたい。

(○佐藤委員)

『図書館につづく道』という児童書ですが、これは短いお話しが入っている本で、10人くらい登場人物があって、子どもや高齢者、若い漁夫など、それぞれが図書館をどう利用しているか、どう見ているか、それぞれの想いの短編が、この一冊になっているもので、架空の町の架空のお話しです。これを読むとそれぞれ人によって、図書館というのは別々なニーズを持っていて、図書館を利用することによって、図書館が育っていくというような感じを受けたのです。

だから、図書館だけが頑張る、いい図書館にするっていうように、図書館だけ

が頑張って市民はそれをただ享受するだけではなく、私たちが利用することによって、いい図書館になるのだということを、若い今利用していない人たちにも分かってもらい、図書館を利用していくということが、一番いい図書館につながるのではないかなと思っています。今利用していない人たちにも関心をもってもらうように、また、すでに利用している人たちには、もっといろいろな図書館のあり方を工夫できるようになっていくといいのではないかなと思っています。

(○坂本会長)

他にございませんでしょうか。

それでは、じっくりこの基本方針を読んでいただいて、ご意見等ございましたら、図書館それから生涯学習課の方にお寄せいただきたいと思います。声を活かしてくださると思いますので、よろしくお願いいたします。

アンケートを見ると、すごい期待大きいですね。

それでは今、四つの議題について、お話しを進めてきたのですけれども、遡っての質問もれや、ご意見をハッキリ伝えられていないというようなことはございませんか。よろしいでしょうか。それでは事務局にお返しいたします。

8 その他

◎イトーヨーカドー花巻店に設置した本の返却ポストについて

梅原花巻図書館長がイトーヨーカドー花巻店に設置した本の返却ポストについて、説明し情報提供した。

- ・花巻市とイトーヨーカドー花巻店が地域活性化包括連携協定を結んでおり、本を借りた方が買い物のついでに本を返せるよう利用者の利便性を図るため設置したとの趣旨を説明。
- ・7月20日（金）から運用開始、広報の8月1日号に掲載予定である旨説明。
- ・壊れやすい視聴覚資料や紙芝居などの大型本は使用出来ない旨説明。

(○坂本会長)

せっかくポストが設置されたので、その上に図書館ニュースや、新刊情報を貼るようなことができれば。スペースをそんなに取らないで宣伝できるのではないかと思います。

(○梅原花巻図書館長)

イトーヨーカドー花巻店さんに相談してみます。

9 閉会（久保田大迫図書館長兼花巻図書館副館長）